

理事長エッセイ

真冬の南半球で「熱い」学会



公益社団法人日本畜産学会
理事長 小澤 壯行

今をさかのぼること 24 年前、初めて南半球シドニーで第 9 回アジア大洋州畜産学会 (The Asian-Australasian Association of Animal Production societies :AAAP) が開催されました。そして今年の 7 月、その学会がふたたび赤道を南下してオーストラリア・メルボルンに戻ってきました。日本とほぼ同じ緯度にあるオーストラリア第二の都市、メルボルンは時差こそ 1 時間日本の先を行っているものの、東京からたどり着くのに 10 時間強も要します。加えて季節は正反対の「真冬」で、北半球からの来訪者は口々に「寒い！」を連発していました。

その AAAP ですが、2 年に 1 回の頻度で研究大会が開催されています。今回は 2 年前の 2022 年に韓国の済州島で開催されました。残念なことにコロナウイルスの影響で出席者は限定され淋しい会議を強いられました。今回はその雪辱もあつてか、21 カ国より 440 もの研究報告が寄せられ、570 人も参加者を得ることができました。日本からも少なくない数の参加者があったと聞いています。

会議初日には Council Meeting が開催されました。当方が畜産学会を代表して、来る 9 月に私たちの学会が創立 100 周年記念を祝うこと、海外からの参加者は大歓迎であることを誇らしげに伝えました。これを耳にした参加者からは「称賛にも近いため息」がつかれていたことを私は聞き逃しませんでした。なぜならば 100 年もの長い歴史を有する学術団体は、AAAP 構成国のなかで間違いなく日本だけだからです。このことに矜持を保つとともに、是非ともこの思いを読者の皆さまにもシェアしたいと思います。そしていつまでも私たちの日本畜産学会を永續させねばならないとの強い信念を新たにさせてくれました。

もちろん我々の機関紙である Animal Science Journal (ASJ) をプロモートすることも忘れてはいません。ASJ 販促物として学会オリジナルの日本手ぬぐいとボールペンを持参し、会場で通り過ぎる人々に手渡して投稿をお願いしました。初めて目にする日本手ぬぐいの使い方を説明するのは容易ではなかったのですが、しまいにはやけに

なって「これは Japanese Tea Towel」だと言ったら、すんなり納得してくれました。

次に日本畜産学会と国外学術団体との「お付き合い」について説明させてください。AAAP は 1980 年に創設され、アジア地域 17 国とこれにオーストラリアとニュージーランド両国を加えた 19 カ国によって組織されています。日本はもちろん創設以来の主要メンバー国です。AAAP はアジア大洋州に限定されていますが、これに加えて世界的な畜産学に関する学術団体として WAAP (World Association for Animal Production) があります。1963 年に設立された WAAP はアジア、アメリカ、ヨーロッパからの主要 17 カ国から構成されており、FAO の特別協議資格を有する国際的な NGO 組織です。5 年に 1 回の割合で学術大会が開催され、今回は 2023 年にフランスのリヨンで行われました。

AAAP、WCAP いずれも日本で開催した経験があります。当学会がホストした世界大会は、皆様のご記憶にも新しい 2016 年に福岡県博多市の九州産業大学で実に 1,160 名の参加者（うち国外参加者 742 名）を集めたものでした。またその 20 年前の 1996 年には千葉市幕張メッセでも開催しました。当時駆け出しの助手職にあった私は、「パシリ要員」として、ずいぶんと先輩の先生方にこき使われたことを覚えています。一方、WAAP 大会は 1983 年に東京で開催したとのことですが、学部生の身分であった私にはまったく記憶がありません。

私たちの学会では、AAAP と WAAP で研究発表を行う若手研究者を対象に「国際会議優秀発表賞」を設けています。賞状と共に贈与される副賞は参加経費の一部助成金として位置づけられており、今回も選出された 9 名の学生会員が受賞され、立派に発表をこなしました。彼らの「出張報告」については後日、本誌上に掲載されますので楽しみにお待ちください。

次回の AAAP は 2026 年にベトナム・ハノイ市で開催されます。私も現役最後の年となりますが、「新ネタ」を携えて報告に挑みたいと思っています。是非、ご一緒しましょう！

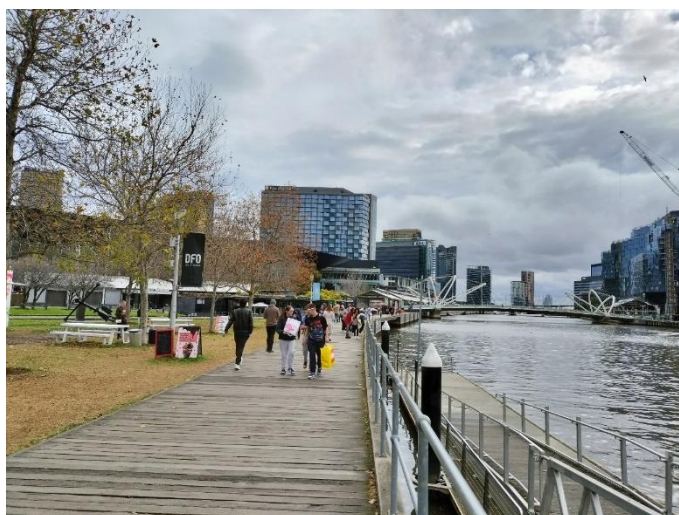
【急なお願い！】

皆さん見過ごされていると思いますが、学会 HP のバナーに「畜産用語辞典」があるのをご存じでしたか？かつて冊子体として養賢堂より刊行されていた辞典が内容を刷新して、Wikipedia 方式

で構成されています。畜産学の最新情報を取り入れているとともに、「無料で使いやすい」仕組みとなっています。これは公益法人としての学会活動の一環です。是非、一度クリックしてご活用ください。



右側の黒く「横に長い」建物が会場です。広いので迷子になりました。観覧車隣の建物にカジノを見つけました。



会場の外はヤラ川が流れていて市民の散歩コースとなっています。